

第16期町田市立図書館協議会

第5回定例会議事録

日時：2016年1月28日（木） 午後3時00分～午後5時00分

場所：町田市立中央図書館 6階中集会室

■出席者

（委員） 山口洋、清水陽子、瀧桂子、吉川篤、久保礼子
鈴木真佐世、齋藤美智子、一川喜久子、砂川とき江
（計9名）

（館長） 近藤裕一

（事務局） 中嶋真（副館長）、佐久間隆司、陣内和之

■欠席者 増川知子

■傍聴者 1名

2016年1月28日

第16期図書館協議会 第5回定例会次第

《議事録確認》

- ・第16期 第4回定例会

《館長報告》

1. 教育委員会

12月14日（月）（第9回）

<報告事項>

- 町田市立図書館資料受渡し事業実施要綱の一部改正について
- 蔵書点検の結果について（別紙資料1）
- 「児童読物作家・山中恒ー子どもと物語で遊ぶ」展の開催について（別紙資料2）
- 「第9回文学館まつり」の実施報告について（別紙資料3）

1月8日（金）（第10回）

<報告事項>

- 「没後25年 日影丈吉と雑誌『宝石』の作家たち-日影丈吉・江戸川乱歩・横溝正史・城昌幸・山田風太郎-」展の実施報告について（別紙資料4）

2. ばお分館図書館サービスについて

2016年1月12日（火）開始（別紙資料5）

3. その他

- ① 平成27年度東京都多摩地域公立図書館大会について（別紙資料6）

《協議事項》

1. 図書館評価について

《その他》

■議事録

○山口委員長 それでは、定刻を過ぎましたので、第16期図書館協議会第5回定例会を開催いたします。

本日は、増川委員が公務のため欠席、吉川委員が公務のためにおくれて出席というご連絡をいただいております。

それでは、お手元の資料をご覧ください。とじてある資料の後半に前回第4回定例会の議事録がございます。既に委員の皆様には定例会の記録が回って確認をされているかと思うのですが、本日これが最終案ということでこの場で確認をしたいと思いますが、特に問題はないでしょうか。

それでは、最終案の議事録が確定いたしましたので、事務局で公開の手続きをお願いいたします。

引き続きまして、館長報告に入ります。それでは、館長、よろしく願いいたします。

○近藤館長 それでは、館長報告ということでレジュメをご覧ください。

1点目が教育委員会の報告です。今回は2回分の報告ですけれども、12月14日（月）第9回教育委員会では、報告事項としまして図書館から町田市立図書館資料受渡し事業実施要綱の一部改正についてということで要綱改正を報告いたしました。こちらにつきましては、後ほどまた出てきますけれども、子どもセンターのぱお分館での予約資料の受け渡しの実施に伴って要綱を改正したということになります。

もう1点報告をいたしました。蔵書点検の結果についてということで、こちらについては資料を1枚めくっていただいて資料1をご覧ください。今回は新システムになって初めての方式での実施ということになります。忠生図書館以外の全ての図書館で実施ということで、日程はこちらに書いてあるとおりになります。今回の特徴としましては、システム更改に伴って貼付しましたカラーバーコードを使つての蔵書点検ということになりますので、期日、実施期間の短縮が図られました。例えば中央図書館で言えば、前は11日間どうしても必要だったのですけれども、今回は5日間で終わっているということで、おおむねどの館も半分程度になっているということになります。さるびあ図書館につきましては、ちょうど工事休館中でしたので、それを機会に実施したというこ

とになります。

点検結果は2番の表のとおりですけれども、おおむね地域館については2013年度と2014年度と2年間やっていなかった割には、不明資料は同じぐらいか減っているという傾向ですし、中央図書館も2014年度やっていない、1年あいての実施ですけれども、ほぼほぼ前回と同じということで、不明の資料数については特段悪い傾向は見られなかったということになります。

期間の短縮が図られて利用者の方にはご迷惑をかける期間が減ったということと、今回から地域館とか中央図書館、五月雨式で行いましたので、例えば中央図書館がやっても、ほかの地域館はあいているというようなことをできるだけ配慮した形での日程となっております。次回以降につきましては、今回の結果をよく検証して、来年度についてはとりあえず忠生図書館を実施する予定にしております。

あと、文学館からですけれども、「児童読物作家・山中恒一子どもと物語で遊ぶ」展の開催についてということで資料2になります。こちらは1月16日から3月21日まで今ちょうどやっておりますけれども、細かい内容は省略しますが、お時間がありましたらぜひ足を運んでいただければと思います。

それから、次のページの資料3ですけれども、これは10月25日に実施した文学館まつりの実施報告ということです。入館者数を見ますと、2014年度よりも増えているという結果になっております。

それから、1月8日にありました教育委員会では、これも文学館ですけれども、資料4になります。「没後25年 日影丈吉と雑誌『宝石』の作家たち」ということで、10月から行っていた展覧会の実施報告ということです。入館者は2667人ということで、残念ながらちょっと目標には達しませんでしたけれども、割と年配の方が来てくれたりということで、今までにない来館者の特徴が見られたということでした。

それから、2番、ぱお分館図書館サービスについてですけれども、こちらは資料5をご覧ください。利用案内をつけましたけれども、ぱお分館のサービスの提供は、どうしても施設の業務を行っている日に行うということで、3つの施設は微妙に違うのですけれども、ぱお分館については月曜日から土曜日までの午前10時から午後6時までがサービス期間になります。

1月12日から実施しておりますので、約2週間たった訳ですけれども、実施前から、いつから始まるのかというような問い合わせも何件か入っていますし、小山ヶ丘のあたりは図書館が身近にありませんので、それなりに期待は高かったのかと思っております。ちなみに、きのうまでで貸出を見てみましたら、14日間で64冊ということです。これは、あくまでも予約が入って準備ができての貸出になりますので、いきなりすごい数字というのは出ないのですけれども、最初のスタートとしては順調にスタートが切れているのかと思っております。

それから、3番目、その他ということで資料6です。平成27年度東京都多摩地域公立図書館大会開催要項になります。2月2日（火）から4日（木）まで3日間、多摩市の関戸公民館で行います。東京都多摩地域公立図書館大会は原則毎年実施していますけれども、小規模な大会と大きな大会を1年ごとにやっています、今年度は大規模な大会ということになります。既に協議会の委員はご参加ということで申し込みもしておりますけれども、仮に申し込みがなくても一般参加で参加できると思いますので、もしお時間等がありましたらご参加いただければと思います。

ちなみに、町田市立図書館は昨年度、今年度と児童サービス研究会の会長市ということになっていますので、児童サービス研究会で直接我々が話すということはありませんけれども、児童サービス研究会では2年間の活動内容の報告をしまして、あと事例報告で福生市と多摩市の方にやっていただいて、最後に今回の調査結果なども見てもらった上で、東京子ども図書館の内藤先生にお話をいただくという段取りになっております。

それから、最後になるのですけれども、レジュメには書き漏れてしまったのですけれども、先ほど追加でお配りしたA3を2つに折ってある町田市立図書館の利用者アンケートをご覧ください。こちらは1月16日から22日まで、中央図書館を初め各地域図書館で調査を行いました。これは3年に1度アンケート調査を行うということで、今までは予算もとれていましたので委託で行っていたのですけれども、今年度実施する予算が確保できませんでしたので、図書館の職員が自前で行ったということになります。サンプル数は、正確な現在の数字は聞いていませんけれども、全館で1800人を取りましようということで行っ

ています。現在、全部のいただいたアンケートの結果の入力を行っているところで、それを2月中旬までに行って、それで分析等を行って、3月末から4月には結果を固めたいという予定で進んでおります。アンケートの内容は、過去のアンケートとも比較をしたいので、原則今までの質問項目に倣っているという形になります。

館長報告は以上でございます。

○山口委員長 ありがとうございます。

では、引き続き館長報告につきまして質疑、質問、確認等を受けたいと思います。次第の順番でいきたいと思いますが、まず12月14日の教育委員会報告、町田市立図書館資料受渡し事業実施要綱の一部改正、これはこの後のばお分館のサービスとかかわりがあるかと思しますので、ここでは割愛をいたします。

続いて蔵書点検の結果についてということで、別紙の資料1が添付されております。これにつきまして何かご意見、ご質問などがございましたら受け付けたいと思います。いかがでしょうか。

○鈴木委員 文学館だけ蔵書が増えているのは、文学館だけそういう予算が確保できたのでしょうか。

○近藤館長 文学館は、今まで点検していたのはいわゆる開架部分、1階のフロアのカウンターがあった奥に本があるコーナーがあると思いますけれども、そこだけやっていたのですけれども、今回はさらに地下書庫の1というところにしまっている資料も点検対象にしたので、点検冊数が増え、それに伴い資料数が増えているという結果になります。それで、ある程度不明の方もちょっと増えてしまったということになると思います。

○鈴木委員 本が増えた訳ではなくて、調べる対象が若干変わったということですか。

○近藤館長 本も若干増えていると思いますけれども、調べる場所を今回は、今まで1日でやっていたのですけれども、今回今まで全然やっていないので地下書庫もやってみましょうということでやっております。

○山口委員長 今の文学館の件に絡めてですが、今回、蔵点ではカラーバーコードをお使いになっているのですが、対象資料は全てカラーバーコードの添付されているものということで理解してよろしいでしょうか。

○近藤館長 文学館につきましても、地下書庫にしまっている資料も、カラーバーコードが貼ってある資料ということになりますので、それを使っての点検ということになります。

○山口委員長 そうしますと、文学館は普通の単行本、普通の図書というよりは糸とじの本、古典籍などもございますけれども、これらについては私はまだ見ていないのですが、カラーバーコードを添付したりとか、そういうことはしていないということによろしいですね。

○中嶋副館長 文学館につきましては、あくまでも図書館と同じ運営をしていると考えていただいて結構です。ですから、全てカラーバーコード、I C タグを貼ってある状態です。委員長ご指摘のとおり、貴重図書のようなものは図書館とは一切扱いが別になっていますので、そういうものは貼っていないので、今回の点検の対象外です。まだご覧になっていなければ、ぜひ言っていただければ。先程の地下書庫1のほかに、地下書庫2と貴重保存庫という倉庫が別にございます。そこで収納しているという形になります。

○山口委員長 わかりました。ありがとうございます。

○瀧委員 2点質問させてください。

1つは、先ほど文学館は一部ということでしたが、そのほかの図書館については全てが蔵書点検の対象になっていらっしゃるのかどうかということ。

それから、不明となった資料の取り扱いはどういう形になるのか、教えてください。

○近藤館長 文学館以外の館につきましては、原則全資料が点検対象です。ただし、貸出をしていない、例えば中央図書館で言えばレーザーディスクなどは点検をしていないというふうになっております。

それから、不明になった資料は、これからも見つかる可能性があるので、3回蔵書点検をやっても見つからなかった場合は除籍処理ということで、台帳から抹消するという処理をしていきます。

○瀧委員 今、不明資料は3回で除籍処理をされるということなのですが、そのときのO P A C上の表示というのはどういうふうになっているのですか。

○近藤館長 正式な言葉はちょっと今覚えていないのですが、今、例えばこの資料を検索すると、不明とわかるような形で出ると思います。3回分見

つからずに結果として除籍してしまうと、この図書データ自体が見られない、検索にひっかからないという形になります。

○瀧委員 ありがとうございます。

○山口委員長 よろしいでしょうか。では、蔵書点検については以上でよろしいですね。

あと、文学館の方で展覧会についての報告と、これは昨年ですが、第9回文学館まつりの実施報告がございました。あと、1月8日の教育委員会報告の日影丈吉展、展覧会の報告と3つ報告がありますが、これにつきましてまとめてご質問、ご意見等を承りたいと思います。

では、私から1つ。文学館まつりは毎回やっていらっしやいまして、天候に左右される部分も若干あるようですが、今年も多くの参加者があってよかったと思います。小学生以下の参加が目立つところも大変いいかなと思うのですが、文学館は確かに図書館法上における図書館ではないので、統計などをとると除外される部分ではあるけれども、一方では図書館と同じベースで活動を展開している組織です。ですので、例えば文学館まつりに合わせて直近の一番近くにある中央図書館とか各館で連動して、何か簡単なイベントまたは企画などを検討されることはあるのでしょうか。

○近藤館長 文学館まつりということで、あわせて図書館でイベント的なものを特別にというのは今のところ検討はしておりません。どちらかという、文学館とか生涯学習センターとか、自由民権資料館のお祭りは一体で盛り上げていきたいという意向もあるのですけれども、図書館はそこは現在のところ検討していなくて、どちらかという、3月に実施する子どもまつりで、子どもといいながら、今回からちょっと違う企画も入れたりもするような形で、それを少し広げることができればいいのかなということも少しは考えておりますけれども、この時期というのは今は考えておりません。

○山口委員長 3月のまちだとしょかん子どもまつりですけれども、こちらが図書館としてはメインだとは思っています。ただ、実際は市民が中心になって行っている訳ですが、やはりいろいろなイベントを生涯学習センターとか、関連する機関が町田市内に幾つもありますから、そういうところの持っている情報の発信力をフルに使えると、まずやっているということが伝わるかなと思うの

ですね。これは生涯学習審議会でも、どうやって伝えるかということをよく議論していたものですから、少し関心があった訳です。

もう1つは、文学館まつりはちょうど10月ですから、春には図書館でとしょかん子どもまつりがありますよというような運動性みたいなものがあると、今度は春の盛り上がりもあるのかと思うのですね。子どもたちが来る、また中高生もビブリオバトルや何かでかかわりが出てくる、接点があると思うので、ぜひこういう場所も図書館としてうまく動いていただけると企画をする市民の方たちも大変よろしいのではないかと思いますのですけれども、そんなことも今後考えていただければと思います。

○近藤館長 PRという意味では、10月で3月だとちょっと間があいているかと思うので、そこでPRするという考えはなかったのですけれども、確かにお子さんを対象としたイベント等もありますから、そこでも少しチラシまではできない、間に合わないかもしれないですけれども、何らかの形でPRができると思うので、その辺はまた検討していきたいと思います。

○山口委員長 ありがとうございます。この件などにつきましてはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、館長報告の2番目で、ぱお分館図書館サービスについてということで、資料5に利用案内が出ております。1月12日からサービス開始ということですが、この件につきまして、またあわせて、ぱお分館の活動も含めて何かご質問、ご確認等がございましたらご発言いただければと思います。

○近藤館長 ぱお分館でサービスを実施するということに、私から、いつお話ししたか忘れたのですけれども、児童青少年課、ぱお分館の担当課ですけれども、絵本とかを購入するというお話をしたと思うのです。そのときに、たしか鈴木委員からご質問があって、その選書はどうするかみたいな話のときに、図書館の方でも協力依頼があればお手伝いしますということをお答えしたのですが、結果として、私が最終的に確認したところ、選書の依頼はなかったということです。

ただし、どんな本が入っているか実際にぱお分館に見に行った職員に聞きますと、いわゆる絵本の定番、有名な絵本があると思うのですけれども、そういう本を中心に購入しているということです。あと、これは少し想像ですけれど

も、児童青少年課に図書館出身の職員がいるので、そういう職員がもしかしたらアドバイスしたのかなという気がします。割としっかり定番的な本を押さえてあったと職員からは聞いております。

○鈴木委員 その辺が気になったけれども、図書館の方が見てくださって妥当な本が入っているということで安心しました。

○山口委員長 よろしいでしょうか。

続きまして、館長報告のその他のところですか。平成27年度東京都多摩地域公立図書館大会、いよいよ間近に迫ってまいりましたが、これにつきまして何かご意見、ご確認等はございませんか。

これは協議会の委員の皆さんには事務局から案内があったかと思いますが、申し込みを事前にされなくても、当日一般市民ということで無料で参加できますので、私もできるだけ毎回出ておりますが、多摩地域全体を俯瞰するときにはいいきっかけになりますので、協議会委員のみならず、図書館に関心のある市民の方にも、ぜひ皆様の周りの関心のある方にもお声がけいただければと思います。特に先ほど館長からあったように、町田市の図書館は児童サービス、2年間にわたる調査の幹事をしていたということで、その報告を第2分科会の児童サービス研究会は兼ねているのかと思います。ぜひそういうところでまた勉強させてもらえればと思うのですね。

○鈴木委員 ちょっと館長に伺った話だと、第2分科会は東京子ども図書館の内藤さんがお話しになるので、内藤さんに報告を見ていただいている話ではあるけれども、具体的には報告ということではないようなことだったんですけども、その辺のことをお願いします。

○近藤館長 児童サービス研究会の第2分科会では、まず2年間、どういう調査を行ってきたかという調査の概略、こんな調査を行ってきましたというお話をしますけれども、その結果をどうということは時間の関係もあってお伝えできないのですね。

まず、そもそもどんな調査をやったかというのと、各市の図書館とか地域文庫とか、いろいろなボランティアの団体がどんなおはなし会をやっているかというような調査が1つ。あと、例えば町田市で言えば子どもまつりがいい例だと思うのですが、各市に特徴的な児童へのサービスのイベント等のどんな

ものを行っているかという調査を行ったということになります。そんなに長くないのですけれども、そのようなお話を15分程度して、各市の特徴的な事例の発表を多摩市と福生市の図書館の方にさせていただいて、メインは内藤先生で、この調査結果を見てもらった上で、それについてのコメントということでは直接的にはないのですけれども、子どもの本と出会うために、地域とどんなことが必要だみたいなお話をさせていただくということになります。

それで、調査結果につきましても、冊子をつくるお金がないので、最終的には何らかの形で公表ができればいいと思ったのですけれども、調査の過程で公表を前提に各市が調査をやっていないということもあって、それはできないのですけれども、ただ、各市の図書館が今後児童サービスを進めていく上での参考資料にしましょうということで、まず、その調査結果は使うということです。

ただし、町田市が調べたことは、例えば町田市のボランティアの方とか、児童にかかわる活動をしている方などからお問い合わせがあれば、情報提供していくというか、見ていただくということは考えています。ですから、子どもまつりでも、去年もマップみたいなものがあつたと思うのですけれども、調査の結果を多少手直ししたマップは多分展示する予定というような形になります。

○鈴木委員 場所だけでなく、どういうところで年に何回かとか、そういうデータもお持ちいただければ、町田市の中しかできなければそれでもいいのですけれども。

○近藤館長 ですから、他市はいろいろ市の事情があつて、最終的に公表するというのは否決されてしまったのですけれども、町田市分については、いろいろなボランティアの団体がやっている中で、公表してもいいと言つたところとちょっと困りますというところがあれば、その辺はきちんと選別しながら整理していつて、お問い合わせがあつたり、あるいは子どもまつりの中でチラシにして持っていけるような形がつかれるかどうかはもうちょっと整理させていただくということになると思います。

○鈴木委員 名前まで特定するのではなくて、例えば小学校では年に何回ぐらい、どういうおはなし会が入っているかといったデータであつて、文庫名とか、おはなし会が特定できるようなものが必要という訳ではないのですけれど

も、今どの程度町田市において、学校でのおはなし会が普及しているかとか、その辺がわかると一番いいのですけれども。

○近藤館長 それについては、もちろんお見せするのはできると思うので、それが一般的に自由に持っていい状態まで、それはどこまで意味があるかというのもちょっとあると思うので、その辺も見きわめながらやっていきたいと思えます。

○鈴木委員 わかりました。

○山口委員長 今の件で、やはり子どもへのサービス、児童サービスとか、あと学校支援というのは、図書館評価の中でも事業項目に含められますし、協議会でも関心を持っているところですので、町田市だけでも結構ですので、情報としてそれはぜひ提供していただければと思います。また、パンフレットの形で配布はできなくても、例えば地域資料という形で閲覧ができるとか、そういうレベルでも本当はできればいいなと思うのですね。

前に尾留川前館長から伺ったのは、多摩地域全体の調査ということだったので、それは今まで余りない例ですから、我々も関心は寄せていた訳なので、全体の公表がストップしてしまっているというのはいろいろ事情があると思うので、手順の問題かとは思いますが、残念なのです。できれば今後は館長協議会に、これは館長の仕事が増えてしまう訳ですけども、例えば配布物ではなくても、それこそ地域資料で館内閲覧というだけでも、今後いろいろな取り組みをしようという団体とか市民にとっては、どこを参考にしようとか、何がこれだけ盛んになっているのかと、次のステップに行くための基礎資料になると思うのです。ですので、ぜひそこら辺の働きかけを今後していただければと思います。

○鈴木委員 結局、こちらはアンケートに答えた方なので、基本的にはアンケートに答えたら、その結果というのは返していただくというのが普通で、市や何かのでもそういうものは公表されますね。そういう意味で、数字的なとか、エリア的とか、そういう意味でのデータとしてのそういうものは、何らかの形で、多摩全体としても、どこの市とか、市のレベルだったら、そんなに個人というか、1つ1つの団体が特定されるものでなければ、山口委員長もおっしゃったように、多摩全体でやる機会がないので、私たちかかわっている者と

してはすごく関心が大きいので、ぜひご尽力ください。お願いします。

○山口委員長 それでは、公立図書館大会についてはよろしいでしょうか。

では、館長報告の最後です。利用者アンケート、1月16日から22日にかけて行われたものですが、本日の追加の配付資料に、A3、2つ折り、4ページのものがございます。3年に1度ということで、これの結果なども、当然のことながら図書館評価や各種事業の基礎資料になる訳ですが、こちらについて何かご発言がございましたら、お願いいたします。

○瀧委員 こちらのアンケートが3年に1度ということなのですが、3年前のものとは比べて何か今年特徴的にこの部分を質問項目に加えたとか、このところを重点的にというようなお考えがあったところはいかがでしょうか。

○近藤館長 先ほど言ったように、原則前回の調査と合わせているのですが、もちろん、忠生図書館が加わったとかというような違いはあります。あと、事業計画でアンケートによって評価しようみたいな項目が幾つかあるのですが、前回の調査のときには、そういう観点、事業計画とのリンクはありませんでしたので、事業計画の評価をしていくために必要な項目を追加しています。

どれかというのと、明確に覚えていないのですが、例えば1枚めくっていただいて、Q.7の「『図書館の自由に関する宣言』についてご存知でしょうか」というのがたしか前回はなかったのではないかと思うのです。

あと、反対側のQ.11の「図書館環境について」ということで、この辺も事業計画で書いていることを評価するために入れた項目ではないかと思えます。

○瀧委員 ありがとうございます。新たにこの辺のところを重点的に見ているということがわかりました。

反対に、これまでは調査してきたけれども、ここは大幅に削ったというのものがあるのでしょうか。

○近藤館長 済みません、明確に覚えていないのですが、多分削ったというのはなかったのではないかと思うのです。もしその辺、誤りがあったら訂正、次回はっきりお答えしたいと思います。よろしいですか。

○瀧委員 はい、ありがとうございます。

○山口委員長 よろしいでしょうか。

Q. 5のホームページ関係とか、それからQ. 9のセルフサービス関係は今年からということですね。

○近藤館長 そうですね。

○山口委員長 ですから、これなどは3月からの利用を受けて、利用者がどんな印象を持っているかというのがあらわれるという点では気になるかなとは思っています。

あと、これは統計をまとめるのも職員の方々お忙しい中で大変かと思うのですが、最後の16番目の自由記述の要望という欄がございます。過去2回のアンケートの結果を私も拝見していますが、この自由記述のところはかなり幅広くいろいろな意見が出ていて、アンケート項目ではなかなか拾えないところがそこにあらわれている。市民の要望、利用者の要望があらわれていると思うので、そこら辺などもできれば協議会で見せていただけるような機会があれば、協議会活動の参考にさせていただければと思います。外部評価などのときに情報提供していただくのも大変ありがたいのですが、できれば早目にいろいろといただくと検討する時間が持てるかと思っておりますので、よろしければお願いしたいと思います。

○近藤館長 アンケートの結果がまとまるのが、今ははっきり言えないのですが、3月末か4月ということで、そのようなタイミングで4月の協議会あたりか、あるいは5月には報告をしたいと思っております。

○山口委員長 お願いいたします。

○鈴木委員 特に11番の図書館環境は館によって違ってきますね。例えば、その辺がどこに○をつけているからとって、そのデータというふうに言われる訳ではないですね。

○近藤館長 どこでとったかというのも、日ごろ、どこの図書館を利用しているかというところか、あるいはどこでとったかわかっているので集計は当然行うと思っております。

○鈴木委員 そうすると、その館のということで、平均的には、こういう質問はなかなか答えにくいですね。

○近藤館長 ご自身が使っている図書館について回答すると思うので、当然新しい図書館は環境がいいということになると思うのですが。

○鈴木委員 わかりました。

○山口委員長 では、よろしいでしょうか。

では、図書館アンケートにつきましては、また結果が出たときに、その内容を精査したいと思います。

では、館長報告につきましては以上です。

引き続きまして協議事項ですが、まず今日は図書館評価について、報告書ができ上がりましたので、それについての報告をいたします。あと、その後に図書館評価は協議会委員全員で行っておりますので、委員の皆様一言ずつ図書館評価の外部評価についてコメント、ご意見をいただきたいと思います。その後、協議事項のその他になりますか、12月、1月と視察をやっておりますので、その視察の結果ということで、これもコメントという形で結構ですので、実際に参加された委員の皆様から視察の内容等についてご意見とかご感想をお願いしたいと思います。

それでは、協議事項の1番の図書館評価について、今日資料が配付されていると思いますので、ご覧ください。

まず最初に、報告書がございまして、報告書が2ページ、それから評価書、コメントが全部で3ページにわたっております。全部をこの場で読み上げますと時間がかかりますので、1ページ目から2ページ目の報告書の中の概略、あとは外部評価者としての提言、その2点のみ読み上げて館長にお渡ししたいと思います。

それでは、ご覧ください。

町田市立図書館長

近藤 裕一殿

町田市立図書館協議会委員長

山口 洋

町田市立図書館の図書館評価に関する報告

1. はじめに

図書館協議会は、2014年度「町田市の図書館評価」の外部評価機関として図書館評価を実施いたしました。2015年8月7日第16期第1回協議会において、図書館長より2015年8月7日付文書「2014年度図書館評価の外部評価について

(依頼)」をもって、外部評価実施の依頼を受けました。協議会は、評価の実施方法等について協議を行い、過去の経験を踏まえて、「図書館評価会議」を設置することとし、第三者の立場からの評価を実施しました。ここに、その結果並びに、経過について報告いたします。

2. 外部評価の実施手順については省略をいたします。

3. 外部評価結果についてで1点だけ申し上げておきますと、今回から評価方法が変わったということ、そして、かつ単年度評価ではなくて、複数年度について継続的に評価をコメントで書き込むというシートが変わったということをご報告しております。ですので、それを踏まえて、今年度最初の年ですので、その後につながる形での評価をコメントとして書き込みましたということをご報告しております。

そして、②のところをご覧ください。今年度の評価について。

今年度は五か年の評価シートの初年度にあたりますが、2014年度は、忠生図書館の開館準備があった一方で、図書館システムの更改やそれに伴う工事、ホームページの新設、また地域館の耐震補強工事などで長期休館が中央図書館、地域館それぞれであり、今年度の数値結果には町田市立図書館の本来もっている能力が正確に反映されておられません。そこで、数値結果については参考資料と考え、2015年度（2015年4月～2016年3月）の数値を今後注目すべきと考えました。よって、外部評価者として現時点での適正な評価が不可能であると判断して、コメントを簡略化した箇所もあります。

それを受けて4番目の外部評価実施による提言ということで、外部評価を実施した結果、以下の4点を提言します。こちらは全部読み上げさせていただきます。

①資料収集について

図書館サービスを支える資料の収集に関して、資料費が連年減額されていることは問題です。さらに地域館が増加したことを考慮すれば、資料費の減額はあってはならないことです。また資料費の減額による新刊購入量の減少は、図書館サービスの低下とともに、学校支援の低下も招きかねません。図書館全体のサービスを維持するために必要な資料費の確保を求めます。

②学校支援について

公立図書館のサービスには、学校教育を支援する活動も含まれますが、これをさらに強化することを希望します。そのためには、学校側の要望を丹念に取り入れるとともに、公立図書館の役割を多くの教員に理解されるようその周知に努めてください。教員の初任者研修においては図書館研修が行われておりますが、さらに全教員へ受講枠を広げることによって公立図書館への関心を寄せる教員を増やすことも必要です。また、教員の理解が深まることで、児童生徒の公立図書館活用のきっかけづくりにもなりますし、学校図書館の運営やあり方についてもよりよい影響を与えることになると確信します。

③図書館ホームページについて

図書館が独自のホームページを持つことによって、図書館の情報発信能力が高まった点が評価できます。近年求められている情報発信型の図書館サービスを実現するためにも、ホームページの内容や提供する情報について、より充実することを求めます。地域資料や地方行財政資料に関するデジタルアーカイブ、町田市に関するクリッピング資料なども候補として検討してください。

④自動貸出機、返却機について

2014年度3月より稼働した自動貸出機や返却機への評価は、2015年度の報告を待たねばなりません。導入により利用者の利便性が図られる一方で、当初より職員と利用者のコミュニケーションの機会が減少することが危惧されておりました。実際に導入した図書館ではそのような意見を図書館員と利用者の双方から伺います。混雑解消や職員をカウンター業務以外へ配置できることは確かに効果として認められますが、利用者との直接のコミュニケーションを低下させることのないように、日常業務で配慮してください。

提言につきましてはこの4つでございます。詳しくは外部評価書の中で各事業に対してコメントとして載っております。

5番、結びです。

協議会は、館長の依頼により「2014年度図書館評価」の外部評価機関として評価を行いました。今回から図書館評価項目数が減少した一方で、評価シートがコメント記述中心の様式になり、評価項目の一部が10月時点での追加依頼になったため、過去5回の評価活動を参考にしつつ、検討方式を改めるなど時間をかける方向で外部評価を行いました。その結果、当初11月末までに報告書を

図書館長に提出することを目標としましたが、翌年1月の提出にならざるを得ませんでした。

今年度からの評価シートは、五か年の評価・外部評価が列記されることになり、今回はその初年度となります。図書館の諸活動は単年度の評価のみならず、複数年度の経過を評価すべき場合もあります。この評価シート自体が、市民にとって図書館の取り組みを理解する上でよりわかりやすくなることを願ってやみません。

協議会委員が、外部評価者として図書館評価を検討することは、町田市立図書館の現状理解とともに、公立図書館の本質を考えるきっかけになりました。また、公立図書館を中心とした学校図書館や学校教育との連携、市民の生涯学習活動の支援など、公立図書館と関連のある諸機関、諸活動への理解を深めるきっかけにもなりました。これは今後の協議会活動において、市民の求める市民のための図書館の姿を想起するためにも有益な活動でした。今回の図書館評価と外部評価の結果を参考にして、私たち協議会は今後とも図書館職員と協力しながら町田市立図書館の発展に尽力していきたいと考えます。

それでは、評価書を館長にお渡しいたします。

〔「町田市立図書館の図書館評価に関する報告」文書手交〕

○近藤館長 ありがとうございます。

○山口委員長 図書館評価・外部評価の評価書に関する報告は以上ですが、これにつきまして全委員で取り組んでおりますので、委員の皆様から一言ずつで結構ですので、ご意見、ご感想などをご発言いただければと思います。それでは、清水委員から。

○清水委員 図書館評価は今年度からまた違った形ということだったので、図書館評価自体は私は3度目ですけれども、とても戸惑いました。今までだと目標があったというところが、そういうものがなくて、シートをぽんと渡されて、その裏にあるものが何なのかというのを考えるのは、やはり私のような図書館と直接関係していない者にとってはかなり想像力をたくましくしないといけないという印象を受けました。

今、評価が終わったのですけれども、これでよかったのかなというのが今でも残ります。的外れなことを考えていたのではないかなというふうな不安な気

持ちを持っているのが率直な感想です。今回、これを出す訳なのですからけれども、どうか図書館からも、こういうことではなかったのだ、伝えたいことはそこではなかったのだということがありましたら、ぜひまたこちらに戻していただいて、お互いに無駄なところで考えるよりも、お互いに前進するために知恵を寄せ合うような形で進めていけたらと思うので、こういう意味で評価してもらいたかったのではないのだけれどもということがありましたら、ぜひ返していただきたいと思います。

○山口委員長 ありがとうございます。では、鈴木委員、いかがでしょうか。

○鈴木委員 私は2度目で、前はABCというふうに評価するということが結構抵抗があったので、今回の方がそういう意味では、事業自体をどういうふうにやっているのかなという観点で、それに対して率直なコメントをするという姿勢としては前のよりも、前は何か点数をつけるではないですけども、そういう感じがしてすごく嫌だった部分と、清水さんがおっしゃったように、これは単年度で見なければいけないところ、単年度で何かを書かなければいけないとか、何かを言わなければいけないというところはちょっとつらい部分もあったりしました。

ともかくこの評価作業をしている間に、図書館のことが少しでもわかるということは、いろいろ質問もさせていただいて、それぞれの部署の方たちがきちんとお答えくださった中で、いろいろわかってきたこともあるので、また来年少し長いスパンで見られたらいいなと思っています。

○山口委員長 ありがとうございます。では、齋藤委員、どうぞ。

○齋藤委員 初めて参加させていただきました。鈴木委員をリーダーとして、どのような形で参加するのかというところに立ちすくんでしまいましたけれども、委員会の間いろいろと学ぶことがたくさんありまして、今後に生かしていきたいと思っています。

○山口委員長 ありがとうございます。一川委員。

○一川委員 私は今年初めて参加させていただきました。委員になりました8月からすぐに評価ということで、今まで図書館のことをちっとも考えてこなかった私が、その評価をするということに対しては非常におこがましいというような思いを持ちながら、それからまた、私は障がい者サービスで日々活動して

おりまして、図書館の障がい者サービスについて何も知識を得ていなかったことに対して、私たち朗奉の者も、図書館の障がい者サービスの活動について余り情報を得ていないと思うのですね。そのことが1つは大きな問題かなと思ったのが今回ありました。

私は、この評価を始めるに当たって、障がい者サービスに足を運んだり、あと市役所の広報課に足を運んだりして、どのように障がい者に私たちのやっていることが伝わっているかということとか、障がい者サービスは今どんなことをやっていらっしゃるかということも初めて詳しく伺ったりしました。図書館の方がとても丁寧に教えてくださったことはすごくありがたいと思いました。

あと、いろいろお話をしていることがすぐに図書館の方たちが実行に移してくださっていることをすごく感じまして、声を出していくということがすごく大切だなということを感じました。ありがとうございました。

○山口委員長 ありがとうございました。では、砂川委員。

○砂川委員 私は3回目になります。今回はレファレンスや障がい者サービスなどで耳慣れない用語が多くありましたので、一般の利用者の立場での疑問とか要望を出させていただけただのかなと思っています。グループで話し合いをしているうちに湧いてきた疑問とか気づいたことなど、もっとこうしたらいいのではないかなということを職員の方々が回答してくださったり、そういうふうにして出したものをリーダーの清水さんや山口委員長がまとめてくださったので、前回のABCの評価よりは言葉で会話できるという感じがしたので、そこはよかったなと思っています。

○山口委員長 ありがとうございます。では、瀧委員。

○瀧委員 私も初めて今回参加させていただき、コメントをさせていただいたのですが、非常にコメントが難しく、どこまで踏み込んでというか、どこまでいろいろお伺いしながらコメントしていいのかというのが非常に難しかったなと思っています。

ただ、今回、とても細かい項目に分かれていて、1つ1つ丁寧に図書館の方から情報提供していただけたので、図書館全体の様子を知ることができて、実際にこの協議会の委員としてやっていく上でも、何かお話をいただいたときにも、自分の情報源としてすごくいい勉強をさせていただいたなと思っています。

す。

また、このコメントも経年でこれから見ることができますので、今年度だけではなくて、この先、積み重なったところですごく生きてくるのではないかなと期待をしています。

あと、正直言って、図書館の問題というのは今回も、例えば資料費の問題ですとか、そこについては私たちが図書館の評価としてコメントしたとしても、図書館だけで解決ができない問題だと思うのですね。そういうところについては、今後また市民として私たちが今度どういうふうを示していけるのかというところに立ち返らないといけないのかなとすごく思ったところです。

○山口委員長 ありがとうございます。では、吉川委員。

○吉川委員 私も今年度初めてお手伝いさせていただきました。ほかの出張と重なって欠席することも多くて、今日もまた遅刻してきてしまいまして、申し訳ありませんでした。

学校にかかわることについては、ここに挙げられたとおりでと思います。中学校での利用減少が残念ですということもありましたが、うちの学校では利用させていただいています。ただ、そこは図書館指導員の協力できていることも大きいかなと思います。これからもいろいろな制度を教員に周知するというのはぜひ進めてもらいたいと思う一方で、私たちの方も、こんな活用の仕方があるということをぜひ進めていきたいと考えています。

私は町田市公立中学校教育研究会の学校図書館部会の顧問をさせていただいているのですが、ここの部屋も使わせていただいて、図書館指導員の方も一緒に入り、何年かにわたっていろいろな研修を何回かやらせていただいています。そんなところからも図書館について学校で利用するようなことについてPRできるかと思いますので、そちらも協力していきたいと思います。

また、指導課の取り組みとしてもいろいろあると思いますので、もし情報が必要であれば、そういう架け橋にもなりたいと思いますので、よろしく願います。

○山口委員長 ありがとうございます。では、久保委員。

○久保委員 新しいやり方になったということで、職員の方もとても張り切って私たちにいろいろな情報提供をしてくださったと思うのですね。本当に詳細

に情報提供してもらえたと思うのです。この限られた言葉の中ではまとめるということの中に細かいことを入れていくことはできていないと思うのですけれども、私たちの情報としては、図書館の方からいただいた幅広い情報とか、率直な情報がストックできているので、これが経年ということで、また来年はそれにまたプラスアルファの情報が入ったときに、すごく具体的なことを一緒に考えられるのではないかなと思うぐらい、率直に詳細な情報を伝えてもらったなというのが長くかかわっている私の今回の印象です。

地域館の視察をしましたがけれども、地域の図書館によってというか、その図書館の内容が本当に違うということはこの外部評価、いろいろ話し合ったことの後に図書館の視察には行ったのですけれども、その辺のことも、自分たちがいろいろなことが見えてきて全体のコメントができるのだなというのを今さらながら思っているので、特に今回はシステム更改などで自動貸出とか、そういうことが起きている中で、地域館で聞いたのが外部評価のときには自分の中にストックとしてなかった、その辺が見えてきたりしていることもあるので、いろいろなことの情報に正確に自分で把握して、コメントをやっていくというのはとても責任のあることで、余りいろいろなことをいかに言えないなというのが率直なところで、本当に少しずつ見えていくためには、現場も知らなければいけないし、職員の方ともやりとりの回数が要るのだなというのも思うので、現場で仕事をしている方は、それに対応していくのも大変だと思うのですけれども、そういうことを全体としては長くやってきた私としてはまた改めて感じました。

○山口委員長 ありがとうございます。

では、最後に私から簡単な感想ですが、私も久保委員と同じ回数やっております。最初の第1回からかかわっておりますが、単年度評価というのは目標に対する達成率を考えればいいので、ある意味では非常に簡単と言えば簡単なのです。それに対して今回は目標がなくて、実際にどういう数値、データが出て、それに対してどんな取り組みをやったかということを経験として出してくれる。それに対して外部評価者としてのコメントということですので、やはり今、久保委員も言われたように、各業務を、まさに現場を知らないとは簡単には評価という形でコメントは書けないという部分が多いというのが率直な感想

です。

ですので、過去5年のようなペースでは評価が終わらないなと今回思ったのですが、一方では、5年分をまとめてシートに書きかえて蓄積していきますので、今後いろいろな問題、今、町田市立図書館も資料費の問題を含めていろいろな課題を抱えている訳ですが、そういう問題を協議会が図書館と一緒に考えていく素地はある程度できたのではないかと考えております。

また、今年は初めて委員になられた方は、何と第1回目の定例会でいきなり評価の依頼を受けることになりました。自分が委員でしたら、そんなことを何でやるのだと怒ってしまいそうな、これはどうしてもスケジュールの関係でやむを得なかった訳ですが、そういう中で初めて参加された委員の方も、一生懸命現状の把握と分析に尽くしていただいたことも大変大きな力に今後なるかと思っております。

協議会としては、今、久保委員がおっしゃったように、いろいろな情報をこれで改めてストックした訳ですが、図書館協議会というのはあくまでも市民、利用者の代表ということになります。協議会は図書館と協力をするだけでなく、やはり市民との架け橋であるということも常々指摘されておりますので、ぜひ外部評価にかかわる経験や知識を皆様のそれぞれ所属している場所で、または周りへ伝えていっていただければと思います。私は常に図書館については、その本質や大切さに気づいた人は、とにかく周りの人にそれを伝えていくことだと。そうすることで理解者を1人でも増やすということも大切ではないかと考えておりますので、ぜひこの経験をそのように使っていただければと思います。

また、視察の件も触れますが、いろいろと課題なども見えてきているかと思っておりますので、また協議会での継続した審議事項にそういう課題をのせていきたいと思っておりますので、ぜひ今後の活動にこの経験を役立てていければと私自身も思っております。

それでは、図書館評価については以上です。

○近藤館長 本当に忙しい中、評価をしていただきましてありがとうございます。今、委員長からもあったとおり、いきなり評価をお願いしてしまっただけで委員の方には本当に申し訳なかったと思っております。ただ、これはどうしてもスケジュー

一的に2年に1回はこういうことが起きてしまうのかなと思っていますので、ご了承していただければと思っております。本当はこの前、行っていただいた地域館の見学とか、そういうものを踏まえてやってもらうのが一番だと思っておりますけれども、その辺は申し訳ないですが、ご理解ください。

あと、清水副委員長からもありましたように、私も目を通しましたが、そんなにずれはないと思っておりますけれども、もう1回きちんと精読して、あるいは図書館にも係長会議、あるいは担当係長会議というものがございしますので、職員にもいただいたことを公表いたします。その中で、もしもずれ等があれば、それはお話しさせていただいて、次に向けてよりよいものにしていきたいと思っております。

それから、ここですぐにコメントできることではありませんけれども、いただいた提言についてはしっかり検討して、図書館で解決できることは解決していきたいと思っておりますが、正直1番の点などはなかなか難しいことですので、それは少し長い目で見ていただければと思っております。本当にありがとうございました。

○山口委員長 それでは、これにつきましてはまた図書館側から必要に応じてコメントを、今後の定例会の中でお時間をいただけるということをお願いしたいと思います。

では、評価については以上にします。

それでは、先ほど申し上げましたが、その他の事項として、次第には書いてございませんが、12月と1月に町田市の図書館視察を行っております。先立って11月に中央図書館のバックヤード見学もしてまして、これについては前回の定例会でご感想など、参加された委員の方にはご発言いただいておりますが、12月と1月の分を合わせて、個別の館についてご発言されても結構ですし、全体についてご発言いただいても結構ですので、この後はフリートークにしたいと思います。ただ、一応順番でまずお話を伺った上でフリートークにしたいと思います。

それでは、順番は逆に行きますか。今度は久保委員からどうぞ。

○久保委員 最初のルートで行ったときの一番の印象というか、一番でもないのですが、違和感を感じたのは鶴川駅前図書館で、図書館のことよりも

ポプリホール全体のことを案内していただいたのが、何となく図書館の印象ともつながって違和感があったということが1回目のコースの中でありました。どうして図書館の見学なのにああいうふうになったのですか。

○山口委員長 それはわかりません。私が答える筋合いではないけれども、あそこは複合館だから、複合館全体の説明と図書館の説明と2つ伺うような感じになりましたね。

○鈴木委員 前回、私がまだ委員ではないときにいらしたでしょう。そのときはどうでしたか。

○久保委員 あんな全体ではなかったです。

○鈴木委員 2回目ということだと思うのですけれども、その前のときは全体というのはなかったのですかね。

○山口委員長 前回のときには、駅前図書館の館長の駅前図書館のエリア内のみの見学で全体ではなかったもので、向こうの説明は聞いていません。だから、主に図書館中心で見て、あのときは随分時間が厳しかったので、全体はさっとしか見なかったですね。今回は、あそこの施設全体を隅々まで見学させていただいたということかと思います。だから、図書館のみの見学ではないという点で少しほかの館とは見え方が違うということかと思います。

○久保委員 あと、水越さんのいる中学校の学校図書館を見せてもらったのですけれども、中学生の気持ちになって図書室づくりをしているという見せ方とか場づくり、プラス水越さんがいろいろな情報を、ベースの図書をそろえることについてもそうですし、新しい情報もちゃんと関心を持つような形で見せていたりして、中学校の中でこういう図書室があるというのは、お勉強とか、そういうので大変な本離れをしまいそうな時期に、こういうスペースがちゃんと学校の中で設けられているというのは、やはりあの人がいるからかなという感じで、そこにいる人の心意気というか、それでここですばらしいものができるのだなというのは改めてすてきなことだなと思いました。人って大切だなと思いました。

あと、2回目のコースの中では、堺図書館は本当に小さな図書館なのですが、チームワークがあって本当に温かくて一生懸命やっているのが伝わってきて、地域の図書館というのは、そこにいる人が利用者に対して温かい気持

ちがあると、こんなにいい場所になるのだなと思ったので、中央図書館とか大きい図書館と違うものが求められるのだなと。それを十分によくわかっている職員の方がいて、それもすばらしいなと思いました。

あと、忠生図書館については、新しいきれいな場所ができたので、とても職員の方が意欲的で、新しいことにチャレンジしていて、それもいいなと思ったというのが印象です。

○山口委員長 ありがとうございます。今の学校図書館で言われていたのは成瀬台中学校で、水越さんは読書指導員の方ですね。

○久保委員 そうです。言葉が足りなくて済みません。

○山口委員長 では、次に参加いただいた委員の方で瀧委員。

○瀧委員 私は1月22日に参加をさせていただいています。22日は北の方だったのですけれども、新館の忠生図書館は以前市民センターの時代に何回か足を運んだことがあったのですが、図書館ではなく、小ぢんまりと本が置いてあるというようなスペースだったのですね。それに比べて、行きましたら非常にきれいで使いやすく、予約専用のコーナーもあって、とてもすばらしい図書館になっていて、実は変わってから初めて足を運んだものですから、ああ、とてもいいところできたなと非常にうれしく思っています。

また、イベントの開催ができるお部屋などもあって、とても有効活用できているなど。ぜひ私たちも何かあったら足を運んでみたいなと思うところでした。忠生ですとか、小山田桜台ですとか、あの地域は図書館がこれまでなかったのですね。そういう意味でも、あの地域の文化を担うような場所として機能してくれるのではないかと非常に期待をしています。

あと、そのほかに堺図書館ですとか木曾山崎図書館ですとか、小さな分館も見せていただきました。それぞれの図書館の司書の方たちが小さいながらも本当に工夫をされていて非常に努力して、利用者の方のために何ができるかというのを考えて運営されている様子が印象的でした。閲覧席がないのを何とか閲覧席をつくろうと努力している姿には本当に感動してしまいましたが、その一方で地域の図書館として施設の改善というのはまだまだこれからぜひやっていっていただきたい、必要だと感じました。ぜひ町田市でさらに図書館に目を向けていただいて、地域の図書館ももっとよりよく使える施設に変えていただ

きたいとすごく強く思っています。

それから、学校図書館、小学校の図書館を見せていただいて、そこも司書教諭の先生が一生懸命頑張っているいろいろなされているというお話も伺ってきて、とてもいいなと思ったのですが、選書のこと非常に苦慮をしていると一言最後にありまして、やはり学校司書の方をきちんとそれぞれの学校に置くということの大切さを改めて感じたのですね。そういう意味では、今後の学校図書館の運営にかかわるところですが、そこできちんと人の配置ができるかどうかというのがこれからかかってくると思いますので、ぜひそこも視点として置いていただきたいと思いますと思いました。

当日、職員の方には1日、非常にお忙しい中をご説明いただいたことについては本当にありがとうございました。

○山口委員長 ありがとうございます。では、砂川委員。

○砂川委員 私は、前回も参加させていただいて、今回2回目です。印象に残っているのは、まず、市立の図書館も学校図書館も、人とお金が不足しているということを口をそろえて皆さんおっしゃったということなのですね。皆さんがおっしゃるとおり、各図書館の方とか学校図書館の方とか、そこにかかわっていらっしゃる方たちは、自分たちの図書館を本当によくしようと思って、その温かい気持ちがすごく伝わってきたので、それはこちらも温かくなる感じがしました。でも、人とお金があったらいいなと思います。

あと、移動図書館が実際に運営しているところを見せていただいたのですが、けれども、車が到着したら、あちらからもこちらからも人が集まってくる様子を見ることができて、本当に移動図書館がなくならないでほしいなと。それも人とお金のことなのだなと思うので、これは市で考えていただきたいなと思います。

もう1つ、小学校の図書館も見せていただきましたが、忠生図書館の向かい側にある小学校で、その図書館が小学校と市立忠生図書館との連携がまだ全然されていないと伺って、すごくもったいないなと思ったのですね。学校の図書館は、多分選書の段階で最初に学習に使う本をそろえられると思うのですね。でも、小学生とか中学生は市立の図書館、公立の図書館を利用する時間ともなくなっているのだろうけれども、少なくなっていますね。だから、楽し

みのための読書という意味では、学校と図書館が仲よくなっていないと子どもたちも来にくいのではないかと思うので、その辺の連携を先生方も図書館の方と仲よくなってもらいたいなと思いました。

○山口委員長 ありがとうございます。では、一川委員、お願いします。

○一川委員 私は、図書館のことは余り存じ上げておりませんので、全くの素人の感想ですが、これだけ多くの図書館を見せていただくことと、中まで入らせていただける機会はなかなかないのでありがたく思うのです。

あと、10カ所の図書館を見せていただいたのですが、その中で印象に残ったのが成瀬台中学の図書館です。そこは先ほどおっしゃったように、指導員の方の力がすごく大きくて、選書の仕方とか、本棚の置き方とか、閲覧する場所とか、とても工夫されていましたね。あと、PTAの援助などもありまして、公共施設というのは市民の意識がすごく反映するのではないかなと思いました。町田市の図書館も、市民の意識が図書館をつくり上げていくのではないかということも同じように感じました。

それから、鶴川駅前図書館はとてもきれいな図書館ですが、指定管理でしょうか。ですから、図書館以外のところもを見せていただいて、プレイルームなどがあったのですが、それも有料でどなたも利用していないような感じでしたね。ですから、図書館として今後本当に機能していくかということがちょっと心配な感じはしました。

忠生図書館はすごく新しくて気持ちがいい図書館でした。中央図書館の文庫などが古くなっているのを手にとると、あっと思ったりするのですが、忠生図書館のは文庫なども新しいのがそろっておりまして気持ちがいいなと思いましたね。

それから、木曾山崎図書館はすごく狭いスペースなのですが、先ほどおっしゃったように、すごく工夫をしていらっしやって感心いたしました。

あと、さるびあ図書館は古い図書館なので段差などもありますけれども、何か居心地がいいような、でも、今はバリアフリーの時代ですので、ちょっと時代には反しているというか、時代の傾向を反映していないのでちょっと難しいところがあるかもしれません。そんな印象を受けました。ありがとうございました。

○山口委員長 ありがとうございます。今、鶴川駅前図書館の件で図書館は直営です。ほかのところに指定管理者が入っているので、全くそれは別で、有料の部分は図書館エリアではないのです。

○一川委員 そうすると、図書番号も図書館の番号ですか。

○山口委員長 全部NDCで統一されているはずですが。どこかの独特な分類をされている図書館というのは異常ですので、町田市は全部日本十進分類法でやっていますので安心してください。どこかの図書館とは違います。

では、齋藤委員、どうぞ。

○齋藤委員 皆さんのお話で用意していたのを全部言われたような、最後はちよつとつらいなと思っております。

私は、移動図書館が今後いろいろな意味で地域と密着型の何か発信をしていたくような、そんな移動図書館であってほしいなというのを強く感じました。よく回覧などが回ってくるのですけれども、その中に図書館のことというのはなかなか情報として入ってこない。今、たくさん人口が増える中で、移動図書館のことを知っている若い世代とか、そういう方々がどの程度いるのかなというのをふつと感じました。そこら辺のところは、もしかしたら情報発信しているのかもしれませんが、市民と地域が密着できる唯一の場所が移動図書館ではないかなというのを強く感じております。どうぞよろしく願いいたします。

○山口委員長 ありがとうございます。では、鈴木委員、どうぞ。

○鈴木委員 1日目のところは、成瀬台中学校の学校図書館は本当に素晴らしいのですけれども、そうすると、今は図書指導員なので有償ボランティアというところで、1つの資格とか、そういうものもない。だから、指導員のやる気と技能ですごく差ができるのだらうなというのが逆に素晴らしい学校図書館を見せていただいて、そうでもないところも多分あるので、その辺、一定の指導員ではない人が雇われているのもちよつと違うのかなというのと、学校司書の問題とか、2つの学校図書館を見て思いました。

それから、1日目であとは忠生図書館が、前回の開館式のときはおはなし会室に黒いカーテンがかかっている、下の絵本の棚にも黒いカーテンみたいなものがかかっていたので、すごく暗い感じで、どんな感じのおはなし会室かなと

思いましたら、今回はカーテンも全部あけてあって、絵本もずらっと並んでいて、とても居心地のよさそうなおはなし会室だなと思いました。

それから、ここは3階に保健センターが入っているということもあって、小さい子のおはなし会にも来るし、それから生涯学習センターと共催で多目的室で赤ちゃん向けのおはなし会もしたということとか、それから「ただON」という子どもセンターに出張おはなし会を夏休みに2回したとか、かなり組織横断的におはなし会や何かに取り組んでいるというところがすごいな、素晴らしいなと思ひまして、いろいろな館でもそういうことをできる範囲でやっていると、子育ての部分というのは組織で縦割りになっていて、なかなか協力し合っでそういうことをするというのが今はできていないので、ここはそういう面でも先駆けとなる取り組みかなと思いました。

それから、多目的室があるということも本当に素晴らしいというか、ほかの館は、中央図書館は別としたら分館にはそういうところがないので、今度、忠生の遺跡の縄文時代展とか、藪内さんの絵本原画展をなさるというのを聞いて、そういう本プラスアルファの部分でいろんなイベントができるので、そうすると、今まで図書館にそんなに足を運ばなかった人も来てくださったりして、すごくいいのではないかなと思いました。

それから、木曾山崎図書館では、ブックトークのことを伺ひまして、準備は大変そうでも、すごく楽しそうな様子、内容も伺ひて、地域密着の地域館らしい活動が今後もできるといいなと思ひて期待しています。

あと、さるびあ図書館は、児童書とか学校支援、地域文庫の支援はあそこが中心になっでいて、古くていろいろ段差があつたりとか大変でしょうけれども、今後も積極的にやっでいただきたいと思ひました。

中央図書館を含めて3日間の見学をして感じたのは、それぞれの館が館に愛情と誇りを持って、予算や人手やスペースがない中、利用者の地域的な特徴に合わせていろんな工夫と努力をなさっているということがすごく見えてとても勉強になりました。それと、館によってすごく雰囲気が違うということも今回感じました。

それから、新システムの導入については、中央図書館はそれを推進している立場ということがあつて、新システムがプラスになることを目指しているの

と、大規模館の方が特性が生かせるということもあって、新システムを積極的に進めていこうという感じが職員の方などの説明や何かでも感じたのですが、小さい地域館では、職員が直接カウンターで対処するというよさがすごくあるというか、お年寄りとか何かは一言二言交わすということもすごく楽しみにしていらっしゃるということで、逆にシステムの更改のことがマイナスになっているという感じも見受けられて、職員の方たちが人と機械を上手に使い分けていこうという気持ちでなさっていることが伝わりました。

それから、指定管理の図書館を私はつぶさに見たことはないのですが、直営ならでは職員の方たちの心意気ではないかと思いました。

それから、もう皆さんもおっしゃっている予算不足の問題は、本当にあちこちで見受けられて、協議会でも、この後もまたこの問題の解決というか、尽力できたらいいなと思いました。

○山口委員長 ありがとうございます。では、清水委員。

○清水委員 皆さんに言っていたところではあるのですが、最後の鈴木さんのお話にもあったように、各館によって本当に雰囲気とかが違いますし、大規模館、小規模館で、利用者の方自体の雰囲気も違うというのものもあるかもしれませんし、最後におっしゃっていた利用者の方とのコミュニケーションが小規模館の場合には自動の貸出機だとかは逆にマイナスの方に働いている部分もあるのではないかというふうな話も伺って、確かにそうかなという気もしました。

それに伴ってもう1つ、機械が入ったことによって人員が少なくなっている館もある訳で、それにもかかわらず近年、学校への出前だとか、そういうお仕事も増えているように伺っています。そういうふうに外に職員が出る場合に、機械は手伝ってはくれないので、人のやりくりがすごく大変になっているのではないかということがちょっと心配になりました。

それと、先ほど学校の図書館のお話が出ましたが、後で見た小学校の方の図書館のことです。学校については、吉川先生がいらっしゃるのですが、町田市では人、学校司書を入れるということについては協議会でも緊急提言というような形でしていたのですが、それは実際には実現せずに、教育委員会では文科省の図書標準を達成することを目標にされていた

と思います。

その結果、この前の先生のお話ですと、図書標準を達成するために古い本も1冊も捨てずにバーコードをつけました。それで私たちの学校は図書標準に達しています。だけれども、古い本が2割ありますという説明をされたのですけれども、この考え方は図書館を充実させるためにやっていたことがかえって裏目に出ているのではないかということで、それもやはり司書が先に配置されていれば、選書の面でも蔵書の構築をする上でも、こんなふうにはならなかったのではないかということを目の前で見てしまってちょっとショックを受けました。そんなところです。

○山口委員長 ありがとうございます。

最後に私から、各館について細かいコメントは、もう委員の皆様がおっしゃっていますので、全体的なことになるかと思いますが、公立図書館に関して言えば、町田市立図書館は直営でやっているからよかったなと思うのですね。というのは、地域館、中央館それぞれ雰囲気があり、独自の個性もあるのですが、これは職員の方が長く図書館にかかわってきている。異動はあるにしても、町田という地域全体をよく見て、公共サービスの一環としての図書館サービスを提供しているということがよく伝わってきました。

ですから、地域に根差しているという言葉が先ほど移動図書館も含めてございましたけれども、やはりそういうサービスを今後とも維持していくためには少なくとも直営でやる。今いろいろメディアで話題になっていますけれども、私は直営でなければいけないのだなということを改めて確信しました。

その中で今、人の問題が出ていましたが、図書館サービスは人的サービスであるというのが基本だと思うので、働く人が図書館員、ライブラリアンとしてキャリアを積みながら成長していける環境というのが保障されなければいけないし、それは例えば仕事がいっぱいで全然研修を受ける間もないというのでは困りますが、かといって機械を置いても置きかえられない、人でなければできないサービスもありますので、そういう人を各館に、なかなか厳しい現状はありますけれども、しっかり配置して行ってほしいな、そういう人材を育てて行ってほしいなということを思いました。やはり移動図書館を見ていると、図書館サービスの原点を見る思いでしたね。職員の方の中にも、移動図書館の乗務

は楽しいということをおっしゃられる方がいるのが大変印象的でした。

あと学校図書館ですが、協議会でもかつて提言も出し、また学校図書館の視察も1回やっております。私自身も、個人的にも見る機会がありましたので、複数の小学校、中学校の学校図書館を見ておりますが、今回は標準的な例と進んでいる例と出していただいた。

1つは、清水委員も含め、皆さんがおっしゃるように、まず学校図書館の人の問題なのだなど。成瀬台中学校は外部からも視察が来るところだそうです。やはり学校司書、町田市は学校司書としては置いていないけれども、司書資格がある方がやっぺらっぺら。実際にNDC——日本十進分類法とか目録の知識を持っていらっぺらっぺらるので、蔵書の管理もされるし、選書に関しても図書館の仕組みがわかっていらっぺらっぺらるので、それができるといふことなのですね。ですから、そういう点で文科省から出ている学校司書の配置というのが必要だろうといふことは言うまでもないかと思ひます。

もう1つは、図書館はどの図書館でも蔵書がまずあるといふこと、そしてその質、内容が問題ですので、数値目標達成よりも利用者の求める資料を置けるかどうか。だから、学校図書館の場合には、児童生徒、教職員のニーズを満たすことができるかどうかといふことは重要だと思ひます。公共図書館が蔵書管理の過程で廃棄をするといふことに対する批判もありますが、限られたスペースの中では必ず廃棄は出るのである。その分、新しいものを入れることで蔵書が新陳代謝していく。それが残念ながらうまく機能していない学校図書館があるといふ現実もある。それは、もう少し図書館といふのはこうしないとうまく進まないのですよといふことを知ってもらひしかないのかなと思ひます。

ですので、外部評価の提言にもありましたが、学校の先生方にも、まずご自身で使っぺらっぺらでよかつたなと思っぺらっぺらでいただくのもいいし、あと、私たちが図書館に関心があるといふのは、自分がふだん図書館を使っぺらっぺらでいて図書館はいいなと思ひし、読書をする習慣がついてる方がほとんどだと思ひ訳ですが、自分がいつ、どういふきっかけで読書にかかわるようになったかといふことを思ひ出すと、やはり子どものころといふのは影響が大きいのです。

大学の司書講習などで社会人や図書館の職員が来ますから、どこから本の虫になったのだといふアンケートをとると、やはり幼少期や小学校または中学校

などで自由に本が手にとれる環境とか、読み聞かせがきっかけになったというのが多いですから、ぜひそういう機会をもっともっと増やしてほしい。そのためにはお金と人が必要ですけれども、未来への投資として、ある意味ではこんなに安い投資はないのですから、それはお金の問題ではないと私は思いますので、ぜひ進めていけるように私なりに何か考えていきたいなと思いました。

とにかく今回、各館の館長さんを初め対応してくださった職員の方も大変丁寧に、また資料も十分用意してくださいまして、本当にありがとうございました。また、今回スケジュールの調整などで事務局、特に佐久間さんと陣内さんにはいろいろ細かい作業などをしていただきまして、改めて感謝を申し上げます。本当にどうもありがとうございました。

今回の視察の結果などは、また次回以降の外部評価にも役立てたいと思いますし、先ほど提出しました外部評価書の内容も含めて今後の協議会でのさまざまな活動に資するものにしたいと思います。あとはぜひ見学の結果は周りの方々にお伝えいただくということも大切だと思いますので、お願いしたいと思います。

○吉川委員 学校図書館のことが出ましたので、説明があつて蛇足かもしれませんが、恐らく忠生小学校の方が標準です。成瀬台中学校の方が進んでいるというか、特別です。でも、何年たっても成瀬台中学校のレベルには行きません。私は隣の南成瀬中学校ですが、何年たっても成瀬台中学校のレベルにはやはり行きません。説明があつたと思いますけれども、特別に成瀬台中学校は文科省から研究推進校として予算をもらつてあの形にしたので、私が聞いた話ですと、別の場所に図書館があつたのを一番広いあの部屋にしようということで移して、いろいろ設備も整えて蔵書も増やしてということだったので、今までと同じペースでやっても、いつまでたっても成瀬台中学校のレベルまでは到達することはないと思います。

蔵書のことにつきましても、何年か前から蔵書率を上げるということで大分やっていますが、幾ら何でも古いものがあつても、地理の本であつたり、地図にソ連と書いてあつたって置いてあつてもしょうがないので、そういうものは私のところは、蔵書率が上がらないと言われてもやむを得ないので、何段階かに分けて思い切って捨てるとかいうことはしています。しかもスペースが足り

ません。多分忠生小学校と成瀬台中学校で比べたら図書館の広さが違ったと思います。図書館に本を置いて、準備室にふだん余り回転しないような古い本を入れたりとかしながら蔵書率を上げているような状況ですので、根本的に広さが足りないということもあります。ちょっと蛇足かもしれませんが。

○山口委員長 どうもありがとうございます。

○久保委員 私も、蛇足かもしれないのですが、忠生小学校でいいなと思って驚いたのが昼休みに放送でビブリオバトルにチャレンジしているのがあって、子どもまつりで、今年でビブリオバトルをやるのは3回目ですか。要するに、子どもたちが本離れとか言っているけれども、図書館の子どもまつりでビブリオバトルをやったときにも、こんなに本が好きな若い人がいるというのを私たちとしてはとても実感しているし、あの企画はすてきだと思って今回もやるのです。小学校で子どもたちが勝ち抜きでやるというのを企画している、あの先生のやり方の元気よさは本当に拍手だったなと私は思うので、そういう意味もありますね。

○山口委員長 そうですね。ありがとうございます。やはりそれぞれのところで、どうやって読書を進めていこうかというアイデアを皆さんいろいろ工夫して考えていらっしゃる。学校の先生も考えていらっしゃる。それがそこで終わらないで見えてくると、ほかでも参考にできるのではないかというのが今回視察していて幾つか見受けられましたので、ぜひそういうところも吸い上げながら見ていきたい。

と同時に、そのために必要な本や環境、部屋のスペースはそう簡単に広がらなくても、少なくとも蔵書は買えば何とかなるかというところもありますから、更新するためにはお金がないといけませんので、それをどう働きかけていくかというのは、今度は市民の番だろうと思います。ぜひそんなところも今後考えられればと思っております。

さて、そろそろ時間になってまいりますが、これからまた8月ぐらいに次の外部評価が来るかと思うのですが、それまでの期間、昨年度は図書館見学や外部評価の結果を受けてポイントを絞り込んで審議事項を見出して、最後に提言という形にまで前回は持っていきました。おはなし会に関する提言書を出した訳ですが、今回の見学と外部評価を含めて、このところ、これから数回にわ

たって検討していこう、または協議会として独自に調査していこうというようなご提案などがございましたら、今この場でご発言いただければと思いますけれども、いかがでしょうか。

1つとは限らず複数挙げていただいて、その中ですぐできそうなところと時間をかけて見ていきたいと思いますというところがある。16期はまだ5回目ですので、あと1年半ございますので、両方の目で見ることができると思います。

○鈴木委員 報告なのですけれども、すすめる会ではしましたけれども、提言の中でおはなし会に図書館のおはなし会室を使わせていただきたいということです。いろいろな面で文庫とか、おはなし会をやっているところに支援、一部でそのことを提言の中に入れましたら、12月に鶴川駅前図書館のおはなし会室で柿の木文庫のおはなし会を、図書館との共催という形ですけれども、基本的には文庫でおはなし会全体を運営したのです。それをやらせていただいて、私たちはいつも土曜日なのですけれども、図書館がふだん余り土曜日におはなし会はしないところでやらせていただいて、たくさんの親子の方が参加してくださったので、私たちもとてもよかったと思うし、図書館の方でも喜んでいただけて今後にもまたつながるといいなと思いました。ご報告まで。

○山口委員長 ありがとうございます。早速提言から実際の行動へ行けた、これは図書館側のご尽力もあるかと思えますので。

○鈴木委員 ありがとうございます。

○山口委員長 では、私から幾つかということと言いますと、外部評価報告書の提言の中でポイントが4つ挙げられております。例えば資料収集については、資料費の問題ですので、さきに館長が言われたように、すぐ問題解決ということにはならない訳ですが、継続して見ていく必要があるだろうということです。あとは学校支援というところですね。この辺などが1つ前から、今回の外部評価の中でもいろいろとご意見などを受けていたところではないかと思えます。

あと、ホームページは、去年の3月からですから、あと2カ月ぐらいするとちょうど1年たつのですか。これも協議会の定例会のいろいろな質疑の中で、そう簡単に枠組みを変えられない。図書館でさわれる部分と業者の方でないとさわれない部分とある。そう簡単に変えられる部分がないかもしれません。あ

とは自動貸出機、返却機についてはいろいろな意見がある中で、これをどう活用していくかということと、逆に利用者コミュニケーションの維持ということですか。これもここでは提言として挙げましたけれども、今後の経過などを見ていくべきものかなとは思っています。

そういう訳で学校支援に関してとか、あとは資料費に関する問題などは、今後見ていかないといけない問題として考えるべきだろうとは思っていますが、どうでしょうか。今この場で特にこういうことというのが今すぐに出てこないようでしたら、今後数回の中で検討していく。ありませんでしたら、今回は外部評価書、固まった形のもの、もう既にお読みいただいているとは思いますが、改めて今日の視察の感想も含めてお持ち帰りいただいて、次回の定例会が2月25日にありますので、それまでの間にメールなどで私の方に意見を出していただければ、その中で集約していった協議会として取り組む課題を幾つか洗い出してみたいと思います。ですので、その件については、今日は増川委員もご欠席ですから、あわせてご意見などをお願いいたします。

○鈴木委員 確認ですけれども、①から④のこと以外ということですか。

○山口委員長 それも含めて。

○鈴木委員 これを含めて、この中でこのことを特にしようとか、そういう感じですか。

○山口委員長 すぐに解決できる問題と継続的に見るものとあるので、とりあえず出していただいていると思います。すぐ解決できそうな問題は、図書館側にもいろいろとお知恵を拝借してやっていただければいいかと思うのですね。

以上ですが、ほかに何かこの場でご発言とか、ご意見とかはございますでしょうか。

1つ情報提供ですが、メールなどでもご案内したかと思いますが、今日皆様にご配付しました町田の図書館活動をすすめる会の「知恵の樹」に出っていますが、一番後ろです。「ひろば」という6ページ目のところに、2月13日に日本図書館協会で行った図書館セミナーというのがあるのですね。こちらで「図書館の運営を考える」というので「武雄市図書館と海老名市立図書館の選書から見えること」という講演会と報告がございます。基調講演は、元町田市立図書館長の

手嶋孝典さんがツタヤ図書館問題を含めてご講演をいただく予定です。

あと、報告で井上一夫さんという方は、武雄図書館に関する問題を市民の立場からずっと見ていらっしやって、いろいろとご発言をされていらっしやる。その井上さんからご報告をいただくということ。

あと、報告の2番目の齊藤大起さんという方は、神奈川新聞の文化部の記者さんで、まだお若い方ですが、神奈川県内の図書館問題をずっと追って記事を書いていらっしやいまして、県立川崎図書館の統廃合の問題とか、その前に出た綾瀬の指定管理問題なども最初に新聞で取り上げたのは彼なのですね。おとしの図書館大会で報告を依頼した人でもございます。こんな会がありますので、関心があればぜひご覧いただければと思います。

あと、先ほどちょっと話題になった指定管理の問題については、この1月に出た「出版ニュース」の最新号に松岡要さん、元日本図書館協会の事務局長ですが、松岡さんが指定管理が導入されて現在までどうなったかというので全国調査をされていて、導入された図書館、どこの業者がどこに入っているか。もう1つは、要するに民営化して貸出が伸びたかということですね。結論から言うと、伸びたところもあるけれども、全面的に後退しているという結論が出ている。そこにはやはり問題点があるのではないかとということ非常にわかりやすく指摘してくださっております。

「出版ニュース」は町田市立図書館、中央図書館にもございますので、関心があればぜひ一読していただければと。今、図書館にはいろいろと情報が出ておりますが、メディアからも出ておりますが、やはり本文をまずお読みいただく方がいいかなというのでご案内申し上げます。

それでは、以上で本日の予定内容が終わりますので、今回の定例会は以上で終わりにいたします。

—了—